

総 評

O・B
会報総評退職者の会
(O・B会)
編集委員会

第45回定期総会ひらく

新会長に北岡孝義さん

鳥井講師強調

外国人 人権にねざした真の政策の確立を

財団法人総評会館
梅原貴司専務理事

総評OB会は、5月22日連合会館において第45回定期総会を開催しました。総会議長には小山正樹さんを選出、当日は阿部会長が体調不良のため欠席、北岡副会長の挨拶を皮切りに財団法人総評会館の梅原専務理事から連帯の挨拶を受けたのち議事が進められました。



北岡孝義新会長

今年度も、基本的には日本退職者連合や平和フォーラムの運動に参加していくこと。「総評を語る夕べ」を例年通り開催することを内容とする2026年度運動方針や予算などが満場一致承認されました。総評OB会は結成周年を迎え、5月22日現在の会員数が47名、会員の減少と高齢化が進みOB会の運営のあり方が問われています。そのため、今年度は、OB会の今後のあり方について役員会を中心に検討していくこととしました。

役員体制については、阿部会長が退任、新会長に北岡孝義副会長を選出、北岡新会長を先頭に、諸活動に取り組んでいくことを決定しました。

総会の後は特別講演会。今、外国人に対する差別や排除が大きな社会問題となる中で、われわれはどう立ち向かうのか、ということ

をテーマに、移住連共同代表の鳥井一平さんを講師に迎え講演を受けました。

鳥井一平
移住連共同代表

「新設される『育成分野』においても本質的な構造が変わらなければ同様の問題

鳥井さんは、「日本に居住する外国人は約412万人に達し、社会を支える不可欠な存在である。しかし、政府は、『移民政策をとらない』という建前を維持し、彼らを安価な労働力として利用し続けてきた」と指摘。特に「技能実習制度を、低賃金や移動の自由の制限、妊娠を理由とした強制帰国などの人権侵害を含む現代の奴隷制度である」と厳しく批判。

が続く」と指摘。「近年深刻化する根拠のないデマや、政府が秩序ある共生といった表現で不安を煽る『官製ヘイト』について事実（ファクト）に基づく反論が必要。多文化共生はすでに始まっている現実であり、労働基準法第3条に基づき国籍差別を排除すべきである。外国人を単なる労働力ではなく、『人間としての隣人』として迎え入れる、人権に根差した真の政策の確立こそが日本に民主主義を問う試金石である」と強調しました。この後、活発な討論も行われ、予定時間をオーバーする熱い講演会となりました。

講演会後は、恒例の懇親会。橋村良夫先輩の音頭で乾杯。鳥井講師も参加する中で、再会を喜び、旧交を温める話の輪があらこちらで咲いていました。

役員近況報告

会長

北岡孝義

この3月、喉頭がんの手術を受け、ようやく傷が癒えたところです。胃、食道に続く3度目のがん手術でした。どうやらもとの日常生活に戻れそうですから、90歳まであと1年半、がんばります。これまでと同様、よろしくご教導のほど。

副会長

井上定彦

自分はいかなる時代に生きてきたのかを反省するために、私たちがめざし求めてきた「ユートピア」と現実、「リアリティ」を考える。それは総評、社会党の歴史的位置をとらえなおす。これを日課としています。

奥島加奈恵

お酒とたばこをやめて4年、体重12キロ増、妊娠8

カ月の体型に!!昔の子育ての地に戻り、老々介護の合間に、ママ友とランチ、映画観賞、カラオケ、おしゃべりと楽しんでいきます。

事務局長

土谷一雄

「今の世の中、右を向いても左を見ても真つ暗闇じゃございませんか」。昔の演歌のセリフが口をついて出そうな世相。右は暴走、左は衰退。そう長くはない残された日々、やることがあるのかないのか、思い悩む今日この頃です。

会計

丹野勇

日本人男性の平均寿命年齢を超えた。自分ながら驚いている。長寿の秘訣は食事にあるらしい。毎回の食事で一口30回のソシヤクであごと脳を鍛えることだそうである。30回のソシヤクは、旨みが途中でなくなり、飲み込んでしまう。旨みか

長寿か、考え中である。

幹事

岡野栄

80歳で車の免許を返上する。6月に右折した車に追突された。事故を起こしたのは同年代の男性。警察を呼び事故処理を済ませたが気の毒になるほどしよげにいた。他人ごとではない、運転中にヒヤリとすることが多くなってきた。

佐々木啓之

来月(7月)で89歳を迎える私にとつてのテーマは、一日をどう過ごすかです。月のうち4回位は、労働ペンクラブに入会していることもあり、都心へ。その他の日は午前中はスポーツクラブで軽い運動と入浴を楽しみ、午後の時間は、昔の仲間、書道の先生がいて、千字文、般若心経など書いて楽しく過ごしています。

成川秀明

市民農園での野菜作りも

10年目。トマト、ナス、枝豆、里芋などを育てています。一昨年来腰痛となり深く耕せず、ナスの生育は今一つ。そして、人権・労働権・格差縮小を重視する政治・経済社会への道について思索を重ねています。

平野陽子

最近シルバー人材センターで、一人暮らしの高齢者への声かけや、イベントの手伝いなどをしています。総評OB会も高齢化で、戦後労働運動を経験された方が、だいぶ少なくなりました。さびしい限りです。

山本武

妻と老後を生きる一認知症について無頓着でいたことが悔やまれる昨今です。「物忘れ」だけでなく「妄想」も伴うのです。介護制度の適用を受けてケアマネさん、訪問介護士さん、デイサービス施設の職員さんの援助を受けています。

会計監査

加藤久美子

総評OB会の役員に名前を連ねているだけで、何もできていません。先日、母親が94歳を前にして硬膜下血腫がみつきり手術受けましたが、1週間で無事退院。いつ何が起るかわからないとつくづく実感しました。いよいよ老々介護です。

芹生琢也

5月、信州旅行。戦没学生集めた「無言館」を見学。作品とともに、もつと生きたかった、もつと描きたかったという彼らの無念さがひしひしと伝わってくる。一步外に出ると、高市政権による「新しい戦後」の足音が高く響く。





1. はじめに

最初に自己紹介をします。私は1936年浜松市郊外に生まれ、静岡大学を中退（処分ではない）した後、63年に愛知県で総評地方オブルグに、75年から静岡県評の書記になりました。89年、連合結成に伴う県評解体に反対して解雇。91年から全日建静岡県セメント生コン支部、次いで静岡ふれあいユニオンの副委員長を務めました。その間、静岡県労組共闘会議および県中部地区労の結成にあたりました。拙著「浜松・日本楽器争議の研究」（1980年五月社）が、総評書記局に入っ

「レフト 資本主義と対決する労働者たち」（私家版）、「レッド 先人たちの闘いの成功と失敗を現在に生かそう」（社会評論社）、小冊子「歴史の暗に埋もれた朝鮮戦争下の清水湊・山猫スト」（梁山泊出版部）を世に問うてきました。1958年に「総評組織綱領草案」が発表されたころは、静大に在籍しながら地区労に入り浸っていました。しかし、私の周辺で「組織綱領草案」が話題になったという記憶がありません。私自身、目的意識をもって読むようになったのは、ずっと後になってからです。

2. 「組織綱領草案」の

画期的意義

戦前労働界に君臨した総同盟、そこから分離独立し

「組織綱領草案」についての雑感

大庭伸介

彼らは全国各地の先進的職場や地域を訪ね

た左翼の全国組織・評議会、そして敗戦後労働戦線を席巻した産別会議などには、規約や方針はあったが、組織活動の原則と行動基準を定めたものではありません。唯一総評だけが「組織綱領草案」というかたちで、日本の労働運動が抱える組織上の欠陥にメスを入れ、その克服と運動を発展させる

の分裂、「日本一強い」と言われた全自日産分会の崩壊や日鋼室蘭の分裂など、いくつかの戦闘拠点が相次いで失陥しました。

そうした状況の中で、総評指導部は東大社研の藤田若雄やイデオログの清水信三ら数人のメンバーに委嘱して、組織的欠陥を克服する方途を探索することにしました。

て、活動家はもとより組合員の家族とも交流を重ね、組織と運動の実態をつぶさに調査しました。とりわけ、世界の労働運動の歴史でも例を見ないような職場闘争に着目し、掘り下げて分析しました。その結果、職場闘争を「階級解放への主体的な下部構造」という画期的な本質規定を導き出した

のです。

「組織綱領草案」の成文化に当たった清水慎三は後年、「若気の至りで少し先走った表現であった」と言っています。決してそんなことはありません。労働者階級の解放という労働運動の究極のテーマと、日常普段の営々たる職場闘争との関連性を正しく位置付けた偉大な成果です。

職場闘争を「統一闘争の前段闘争に過ぎない」とした「みいけ20年」（1980年 三池炭鉱労働組合）の「はしがき」に記された平板なとらえ方とは大違いです。

三池争議の前年1959年春、日経連（のちに経団連に吸収）の総会で、専務理事の前田一は三池の職場闘争を「革命の子」と称し、すべての資本家・経営者に警鐘を乱打しました。三池の職場闘争が職場における

資本の支配を蚕食しつつあり、このまま発展すれば資本主義体制そのものを危うくしかねないと深刻な危機感を抱いていたのです。

ところが総評も炭労も三池労組も、そのような認識を持っていませんでした。「戦後労働運動の分水嶺」といわれた三池争議が敗北した根本原因はここにあったと見るべきです。

3. 「組織綱領草案」の

今日的意義

「組織綱領草案」のもう一つの特長は、地域共闘の重要性を正しく位置付けたことです。その当時、労働運動を単産本部―企業連―単組―支部―分会という縦の線を中心に進めるのが当たり前とされていました。しかし、「組織綱領草案」は、地域共闘をこうした縦の線を支える補助手段ではなく、第一次的な闘争であ

ると位置づけました。

膨大な未組織労働者をはじめ失業者や自由労働者の組織化と、農民や小零細商工業者と提携して闘うことの重要性を強調したのです。今日的に言えば、さらに「在日」や外国人労働者、障がい者などを含めることを意味します。これらの人々と接し、交流し、共に闘う地域共闘の重要性は改めて強調するまでもないでしょう。

企業内組合の活動家はこうした地域共闘に参加することで階級的意識を育て、そこで得たものを自らの職場に還流させていったのです。このようにして、地域共闘は総評労働運動を下支えし、社会運動総体を「構造的に代表」する基盤を形成しました。

物価、環境、福祉、介護、子育て、教育その他、日常生活すべての課題と矛盾が、

地域社会のなかで解決が求められています。かつて県評や地区労、とりわけ後者は、そのための駆け込み寺的機能を果たしていました。だからこそ、連合結成に伴って県評・地区労の解体が行われたのです。

新自由主義とその破綻によつて、貧困と格差が深刻化しつつある今、地域社会を人びとの生活を支えるコミュニティとして構築する重要性が問われています。数十年も以前に地域共闘を正しく位置付けた「組織綱領草案」の先駆性に改めて目を覚まされる思いです。

4. さいごに―

「工大会議」について

「組織綱領草案」の160ページに「工大会議」、178ページに「夜の工大会議」という言葉が記されています。「工大会議」は「工場代表者会議」の略

称です。

工場代表者会議は、1905年の第一次ロシア革命においてモスクワの労働者が編み出した戦術です。組織率が低く、しかも同じ工場の中にいくつもの組合が併存する状況のもとで、すべて労働者に共通する最も切実な要求をまとめ、それを地域に広げて、各工場ごとの代表者を集めて統一行動組織する戦術です。

日本でも戦前、1925年に大阪の印刷労働者が、27年に小樽海陸仲士大争議でこの戦術を実施して勝利した経験があります。

組織率が低下の一途をたどり雇用形態が多様化した現在、見直してみろべき組織戦術ではないかと思えます。(2025・9・22記)

(おおばしんすけ)

元愛知県評オルグ
静岡県評書記)

編集後記

中傷動画とサナエトークンについて「忙しいので、陳述書を提出するので答弁に代えさせてほしい」とのたまうのは我が国の総理大臣である。あからさまな答弁拒否、国会軽視以外の何物でもない。国権の最高機関たる国会において自らの疑惑について答弁を拒むなどというのは後にも先にもこの人くらいだろう。

民主主義の根幹を揺るがすこの問題に対して、野党やメディアの追及はどうだろうか。高市の高支持率にビビって追及を手控えている場合ではない。権力者に疑惑があれば、徹底的に追及して解明するのが野党の役割のはず。この国の民主主義が問われていることをお忘れなく。

会員短信

市村忠文

全日農の書記長を続けています。

小島茂

相変わらず、埼玉と栃木での2拠点生活を続けています。

片倉利夫

足の具合が芳しくありませんが、頑張つて出かけます。よろしくお願い申し上げます。

加藤久美子

世界も日本もますます悪くなっているようで、孫たちの未来が心配です。

北岡孝義

4月23日に退院しました。手術の傷が治るまであと1か月かかるとのこと。ご迷惑をかけますがよろしく。

軍司輝雄

私も今年75歳になります。日常は、NPO東京ケアネット

トの活動と、産別候補者の全国幹事で動いています。

芹生琢也

めっきり足腰が弱り、行動半径が狭くなってしまいました。トランプとネタニヤフを歴史の法廷に引きずり回したい。

長谷川一博

足の骨折にも一時停止違反にもめげず、季節とともに家庭菜園、散歩を楽しんでいます。

宮入晃

只今、病とは平和共存状態で過ごす日々です。

宮尾英世

歩くことが今いちで、電動自転車で近辺を走り回っています。

渡辺久行

29日のメーデーに参加してビックリ！一番会いたくない人が来賓で。日本の労働界、政治の様変わりにガツカリ。

訃報

真柄栄吉元総評事務局長

と阿部保吉元全林野委員長、前総評退職者の会会長が亡くなられました。お二人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

真柄栄吉様



元総評事務局長

2026年4月9日逝去
享年96歳

1929年新潟県生まれ
自治労本部書記次長 財政局長 書記長を歴任の後

1983年総評事務局長に就任 総評最後の事務局長として国鉄分割民営化反対闘争や労働戦線統一に取り組む

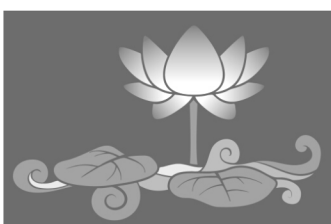
阿部保吉様



前総評退職者の会会長

2026年6月3日逝去
享年92歳

1934年山形県生まれ
全林野労組財政政局長 書記長 中央執行委員長を歴任 日本退職者連合事務局長 会長を歴任の後 2020年総評退職者の会会長に就任 2026年退任 白蟻病問題や国有林野事業の再建などに取り組む



2026年度役員体制

会長

北岡孝義

副会長

井上定彦
奥島加奈恵

事務局長 土谷一雄

会計

丹野勇

幹事

岡野栄
佐々木啓之

成川秀明
平野陽子

山本武

会計監査

加藤久美子
芹生琢也

回想 総評時代

総評解散の8年前の1982年5月、わたしは39歳で総評経済局職員に採用された。前年の春、勤務していた中小民間シンクタンクが倒産(3か月組合管理闘争を経験)、82年には失業の身だった。私の先行きを心配し、大学時代の友人が総評調査年報を執筆していた縁を伝手に、宝田総評経済局長に職員への採用を願ひ出てくれた。それが許され、総評職員に就職した。

経済局に配属

移転2年目の新総評会館6階経済局だった。出勤し始めたころ、同じ階の財政局の山本京子さんから「あなた、どこの方」と誰何された。経済局は新人紹介に無頓着だった。

経済局には、宝田局長のもと、井上調査部長、二人

の高橋さん(弘、市夫の両氏)、長谷川さん、資料室担当の仲地さんと、多彩な面々が在席していた。経済局での私の主な仕事は、年々の「春闘白書」と「総評調査年報」の作成作業等になると、井上調査部長から指導を受けた。これら作業では自宅執筆作業も多いとのこと、資料室の仲地さん

を除いて、経済局の皆さんの出勤は11時以降のことが多かった。

そのため、就職1年目の春・夏の間、出勤後の午前中は、総評にかかってくる電話の取次ぎ作業が主な仕事だった。電話の呼び出し音が鳴っても誰も取らない。やむを得ず、私が取り、呼び出し先部署に取り次いだ。その電話の中には、「労働相談」も少なくなかった。私は、電話を切るわけにも

いかず、前職での「組合経験」や大学時代の労働法講義を思い出して応答した。窮する質問には、「東京都の労政事務所に問合わせを」など、自己流で対処した(後に、「労働相談電話は、全国一般に振ればよい」と助言された)。

「国民のための行革」、「人事院勧告凍結撤回」を求めて運動を展開した。当時、宝田経済局長のもとに、臨調行革対象の全林野などの労働組合役員が、その相談に訪れた。受付係の私は、全林野など公労協産別の役員の方々と知り合うこととなり、その組合本部などの訪問も経験した。

「前の職場がシンク(倒産)としての転職」と応えた。そして「労線統一問題」を改めて身近な問題として考えるようになった。

新人職員として

総評運動を経験

成川秀明

(1) 1983年総評調査年報は、この第二臨調行革問題を論

調行革時代で、「増税なき財政再建」「赤字公共企業の民営化」等が声高に論じられていた。総評は、この

じており、私も「公社論」を担当し執筆した。

第2次臨調行政調査会に丸山自治労委員長を委員に送込み、またその第二部会参

集会・国会デモ、街宣行動を日常的に展開した。

与に宝田経済局長を充てていた。臨調提言の「国鉄・電電公社・専売の民営化」に対しては、「国鉄・電電・

専売の分割民営化反対」、

「労働組合の大同団結」に異議はなかった。しかし新人職員の私には「労線統一問題」よりも総評労働運動

が何を行っているのか、日本の労働者に何をもたらしているかなど、総評運動の実態を理解することが第一の関心事だった。